

# 思いがけずシステム担当者になってしまったら —OPACをDIYで充実させる— 【導入部】

実践女子学園 伊藤民雄

## 1.

ご紹介に与りました、実践女子学園の伊藤と申します。よろしくお願いいたします。「思いがけずシステム担当者になってしまったら」という演題で、お話ししていきたいと思えます。

講師は、私、伊藤と、野田市立興風図書館の川嶋斉さんです。

川嶋さんの紹介をいたしますと、1998年から野田市立図書館に勤務し、「在架なう」で注目を浴びる、若手ライブラリアンの一人です。川嶋さんは、入職時から、本日の演題にあるように、思いがけず、有無をいわずシステム担当者にされてしまった経験者です。

私、伊藤は、1989年から実践女子大学図書館、実践女子学園情報センターに勤務しております。システム担当は2006年からで、主な著作はレジュメの通りです。

### 講師紹介

川嶋 斉(野田市立興風図書館)

- 1998年から野田市立図書館に勤務
- いきなりシステム担当者になる
- 「在架なう」で注目を浴びる若手ライブラリアン

伊藤民雄(実践女子学園)

- 1989年から大学図書館、情報センターに勤務
- システム担当は2006年から
- 主な著作:『インターネットで文献探索』『世界の出版情報調査総覧』(日本図書館協会)、『図書館情報資源概論』『情報サービス論及び演習』(学文社)

本日のフォーラムは、予期せずシステム担当者になってしまった図書館の皆さんを対象に、知識、情報の提供や、サービス改善のヒントの獲得を目的とします。

### 本日の内容

1. 導入部 伊藤
2. 第1部: 川嶋担当
3. 第2部: 伊藤担当
4. 日外アソシエーツ BOOKデータASPサービスご紹介

後述

対象: 予期せずシステム担当者になってしまったが、サービス改善を考えている担当者

目的: 知識・情報の提供  
サービス改善のヒントの獲得

## 2.

2010年に、日本図書館協会情報システム研究会が、図書館システムの諸課題の把握を目的として、三菱総研に委託、協力を依頼しまして、「図書館システムの現状に関するアンケート」を行いました。

### 図書館システムの現状に関するアンケート

1. 調査実施: 日本図書館協会情報システム研究会、三菱総合研究所(委託・協力)
2. 目的: 図書館システムの諸課題の把握
3. 調査対象: 公共図書館、大学・短期大学附属図書館、専門図書館、学校図書館
4. 調査期間: 2010年5月18日～6月11日
5. 調査方法: 無作為抽出した各図書館宛に調査表を送付
6. 有効回答数: 1,141件(回収率:65.6%)

結果のポイントを申し上げますと、「①システム担当者の有無」では、「担当者なし」が41%で、中小規模の図書館は、ほとんどいないという回答でした。

「③システムの満足度」では、機能改善の柔軟性に皆さん不満をお持ちである。

4 番目、現行システムの見直しが必要か否かについては、大半の図書館が見直しの必要性を感じている、と。その中で、「既存サービスの充実・改善に重点を置きたい」と、考えている傾向が出ています。

5 番目に、利用者へのナビゲーション機能の充実を図りたい、と考えていることが判明しました。

**図書館システムの現状に関するアンケート**

- 結果のポイント(抜粋)
- ①システム担当の有無  
担当者あり 6% 担当者なし: 41%  
中小規模の図書館程この傾向が強い。  
8割近くの図書館は、外部のIT専門家の支援を受けていない
- ②IT人材育成のため仕組み(中長期計画や研修機会の付与等)  
なし 85% 中小規模程この傾向が強い

**図書館システムの現状に関するアンケート**

- ③システムの満足度:  
「大変満足」又は「どちらかといえば満足」 75%  
利用統計の機能、機能改善の柔軟性に不満
- ④ 現行システム見直しの必要性  
「必要性なし」 約7%  
大半の図書館が見直しの必要性を感じている。  
今後の方向としては、5割近くの図書館が「既存サービスの充実・改善に重点を置きたい」
- ⑤ 今後の改修・再構築の課題と重視する点  
・一般的な操作性の改善、  
・利用者へのナビゲーション機能の充実  
・コストの低減

3.

現在の図書館システムが置かれている状況は、「規模・熱意・資金による 2 極化」です。蔵書検索 OPAC に費用をかけてカスタマイズを行う図書館と、パッケージのまま使う図書館に分かれています。ただ、大きな図書館であっても、人員が不足している、ということも聞こえてきます。

それに加えて効果的な内外情報の活用と提供が課題となってきた。

費用をかける場合であっても、図書館の顔、考えが見えるべきです。例えば、春先に明治大学が、授業名から OPAC で資料検索をできるようにし

た事例があります。そこには図書館の「工夫」いわゆる「手作り感」が見えます。これらが見えた方が利用者の理解が得られるようになると思います。ここでいう「手作り感」とは、「素人っぽさではなく、一手間を掛けて価値を高めること」と、本日は思ってください。

過度なカスタマイズを図るのは難しくとも、つまりパッケージのままであっても、プラスアルファを狙うべきです。本日お話ししたいのはこの部分です。

**規模・熱意・資金による2極化**

- 大規模図書館でも人員不足?
- 内外情報の活用と提供が課題になっている
- お金をかけた場合の「手作り感の欠如」  
いかにもお金かけています  
素人っぽさではなく、一手間をかけ価値を高めること  
(例) 明治大学の授業名からの資料検索

4.

ところで、サービスの改善を考える前に、皆さん、OPAC の書誌だけでは情報不足、と考えていませんか。

再確認すべきは、やはり MARC の書誌項目です。ここにはないものは、検索キーにすることはできません。内容細目はあったとしても、詳細な目次、概要、要旨、レビューやコメント、件名は、項目がなければ、検索キーにすることはできません。

**自館目録(OPAC/MARC)の再確認を**

- ①MARCにない項目は、検索キーにはできない
  - ・内容細目以上に詳細な目次、概要、要旨
  - ・レビュー(感想)、コメント
  - ・NDLSH, BSH, TRCSH以外の件名
- ②システムで非保持情報は検索及び外部配信困難
  - ・所蔵関連、新着図書・雑誌記事情報の配信・SDI
- ③OPACと外部情報源の連携
  - ・他の目録連携: ISBN, ISSN, 雑誌コードは必須
  - ・未登録資料の検索  
電子ブックと電子ジャーナル



インターネットの情報には、図書館にとって魅力的なコンテンツが多数あります。これらのコンテンツを図書館システムと関連付けできれば、OPAC から外部情報へのリンクアウトが可能となります。

では、MARC のどの項目と連携させるか。大学では、Webcat Plus ならば NCID、国立情報学研究所書誌 ID 番号。或いは、ISBN で連携させたり、タイトルで検索させたり、ということをしています。

**③ OPACから外部情報へリンクアウト**

- 国立国会図書館系 NDL OPAC、リサーチ・ナビ、レファレンス協同データベース
- 国内外の書店目録、雑誌定期購読サイト
- 地域図書館横断総合目録
- NII系 CiNii Books/Articles, 新書マップ(連想検索)、闘病記ライブラリ
- 地方自治体内のニュース
- 電子ジャーナル & 電子ブック

**MARCのどの項目で連携リンクを行うか**

**③ OPACから外部情報へのリンクアウト**

<図書>  
図書館に訊け! / 井上真琴著  
ISBN: 978448006189X  
(初版発行: 2004)

詳細を表示

出版者	東京 丸善書房
出版年	2004.8
大きさ	25cm 横切、18cm
著者	井上 真琴(1962-) (イノエ, マコト)
件名	NDLSH 図書館活動 NII, SH 情報サービス NDLSH フォンズワーク ESH 図書館利用 ESH 文献探査 ESH 情報検索
分類	NDOS 015 NDOS 015
本文言語	日本語
コード	書誌ID=110087927 NCID=BA68129126 Webcat Plus ISBN=448006189X

他の検索サイト

- Webcat Plus
- NCIDで検索
- ESNで検索
- タイトルで検索
- Google
- Google Book
- Google Scholar
- Yahoo!
- ESNで検索
- タイトルで検索
- 国会図書館
- タイトルで検索

である IDENT フィールドに記述しています。ここに記述すると、図書館システムの仕様により、OPAC からリンクアウトさせることができます。同様に、郷土資料件名。郷土資料の件名を、MARC の件名フィールドに図書館自らが直接記入して、そこから検索させるようにしている図書館もあります。

2 番目として、アドオン情報を購入する。日外アソシエーツの BOOK データベースや、MARC 会社の、典拠、内容細目、目次、雑誌情報を購入することで、人名、団体件名、地名、目次、要旨や、学習件名、教科書単元、読み物キーワード、雑誌等から、検索することができるようになります。

**サービス拡充の方策**

①自力でMARCに追加入力する  
例: 闘病記用件名  
電子資料のURL  
郷土資料件名、など

②アドオン情報を購入する  
例: 日外アソシエーツ: BOOKデータベース:  
1986年以降約120万件の 目次・要旨、書店的分類、  
人名件名・団体件名・地名件名・一般件名など  
TRC MARC: 典拠、内容細目、目次、雑誌  
「学習件名」「教科書単元」「読み物キーワード」「雑誌」

③自作する ← 本日の講義内容

3 番目として、自作する。これが、本日の話題の中心となります。

自作する場合、ベンダーとの契約で、勝手に変えることができない、或いは、個別カスタマイズは費用が掛かるといった、仕様上の制約があります。大学図書館の場合では、参加組織である国立

5

サービス拡充の方策として、3 つ挙げます。

「①自力で MARC に追加入力する」。例えば、「闘病記用件名」。確認したところ、東京都立図書館は、闘病記の件名については、「自分たちで MARC に記入しています」ということでした。

電子ジャーナルや電子ブックなどの電子資料の URL を、聖徳大学図書館では、MARC の項目

**自作(DIY)する**

- 仕様上の制約  
ベンダーとの契約で勝手に変えられない  
個別カスタマイズはお金がかかる
- 参加組織の仕様上の制約(大学図書館)  
vs. 国立情報学研究所NACSIS-CAT仕様

<目標>

- 仕様の範囲内で、プログラムやAPIを利用して自作する。場合によってはOPACを離れて、自館外の外部情報資源を有効的に使う
- 自分達で使って便利なものをつくる(重要)
- サービスを拡充する

情報学研究所の NACSIS-CAT の仕様が制限されます。

本日は、仕様の範囲内でプログラムや API を利用して自作する。場合によっては OPAC を離れて、自館外の外部情報資源を有効的に使っていく。自分たちで使って便利なものをつくる。それが目標です。

自分たちで使って不便なものを、他人に勧められません。だから、自分たちで使って便利なものを作ろう、と。それによって、サービスを拡充する。

については、本日第一部、第二部で自作する、という流れで話を進めていきます。

### 自作(DIY)する 具体例

#### 第1部 公共図書館向け(川嶋)

- Webサービスについて
- 地域資料検索
- DIYの方法 JavaScriptでOPACをデコレーション  
在架なう!

#### 第2部 大学図書館向け(伊藤)

- OPACから外部情報へのリンクアウト
- OPACで電子ブックと電子ジャーナルの検索  
「青空文庫」「CiNii」「J-STAGE」など
- 図書館/利用者コメントの利用

20

前置きが長くなりましたが、本編に入りますので、第1部の川嶋さんへ交代します。よろしくお願いいたします。

以上

(フォーラム開催日 2012年11月20日)